

令和7年度 江別市学校教育基本計画（第3期）推進状況報告書

計画期間 令和 6 年度～ 令和 10 年度

基本理念：心豊かに学び ともに未来のふるさとを拓く 子どもの育成

目指す子ども像：夢を持ち、夢を語り、夢の実現に向けて 行動する子ども

子ども一人ひとりに新しい時代に必要となる資質・能力と、豊かな心と健やかな体の育成、教育環境の整備、学校、家庭、地域との連携協力の観点から、4つの基本目標に基づき計画を推進しています。

基本目標1：確かな学力と新しい時代に必要となる資質・能力の育成

【基本目標1で目指すこと】

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちが、未来に向けて自らが社会の創り手となり、問題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくためには、「育成すべき資質・能力の三つの柱」を身に付け、知・徳・体のバランスが取れた力である「生きる力」を育む必要があります。

このため、学校教育においては基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させることに加え、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成や、自ら学びに向かい、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度を育てます。また、一人ひとりのニーズに応じた指導や支援を行う特別支援教育の充実に努めます。

◆成果指標1－① 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標値（R10年度）
78.6%	83.2%	78.7%				

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標1－② 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標値（R10年度）
71.5%	75.7%	73.3%				

指標：全国学力・学習状況調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

【前年度の取組内容】

・市教委の指導主事が全ての小中学校を訪問し、各学校が作成した「学校改善プラン」へ指導・助言を行うなど、子どもが自ら進んで学びに向かい、仲間と意見を交わしながら知識を自分のものにしていくことを意識した授業改善に取り組みました。

・日々の教育活動全般を通じて、児童生徒一人ひとりの良さを認め、達成感を感じられる機会を積極的に提供するなどの取組を行いました。

・児童生徒が授業の内容を理解し、確かな学力を身に付けられるよう、全小中学校に学習サポート教員を派遣し、ティームティーチングや放課後の補充的学習等に積極的に取り組んだほか、外国語指導助手を派遣しネイティブの英語に慣れ親しむなど、異文化を理解・尊重する態度やコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組みました。

【成果指標の動向・分析】

・成果指標1－①・②は、前年度より若干減少したものの、引き続き現状値（R4年度）より増加傾向にあります。

【次年度の推進の方向性】

・次年度においても、各中学校区での日常的な教育活動をより一層充実するよう、指導主事訪問や人的支援等を継続するとともに、子どもたちが夢や目標を持ち、自分らしい生き方を実現する力を身に付けるための取組を進めます。

・各学校からのニーズが高い学習サポート教員などの人的支援について、人材確保や派遣回数を増加するなどして授業支援の充実に努めます。また、小学1年生から導入している外国語活動について、異文化を理解し尊重する心と豊かなコミュニケーション能力を育むよう、引き続き取り組んでいきます。

基本目標２：豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進

【基本目標２で目指すこと】

豊かな心を育むには、自らがどのような大人になりたいかを考え、他者との関わりの中で自分の役割を果たしたり、目標を達成した時に周りから認められたりする成功体験を通じて、自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度を身に付けさせることが必要です。

そのためには、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育を推進するとともに、道徳教育、読書活動、生徒指導の充実により規範意識を高め、自らを律しつつ、他者を思いやる心や感動する心を育成します。

また、日頃から、いじめを許さない環境づくりや、児童生徒を理解することで信頼関係を構築し、不登校の未然防止を図るなど、様々な悩みや課題を抱える子どもたちの気持ちに寄り添った支援の充実に努めます。加えて、健やかな体を育成するために、基本的な生活習慣や運動習慣を整え、食育の充実や健康教育により、心身の健康の保持、増進を図ります。

◆成果指標２－① いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
88.6%	87.0%	87.3%				

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標２－② 自分には、良いところがあると思う児童生徒の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
77.5%	84.3%	84.3%				

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標２－③ 運動が好きな児童生徒の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
85.4%	86.3%	84.7%				

指標：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

【前年度の取組内容】

- ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、児童生徒にいじめを許さない意識を醸成させるとともに、いじめアンケート調査等により学校が認知したいじめに対して組織的な対応に努めました。
- ・様々な悩みや課題を抱える児童生徒及び保護者への支援体制の充実を図るため、スクールソーシャルワーカーが、学校・福祉・医療などと連携して課題への対応に取り組みしました。
- ・小中一貫教育では、自己肯定感や自己有用感を向上させるため、一人ひとりの良さや可能性を見つけて伝え、小中９年間を通じた様々な異学年交流の取組を進めました。
- ・勤労観や職業観を育成するための職場体験や様々な経験を持つ講師による講演会を実施するなど、児童生徒の社会的・職業的自立に向けた能力や態度を育てるための教育に取り組みしました。
- ・人への思いやりや規範意識を育むため、教育活動全体を通じて道徳教育を推進したほか、食育教育の一環として農業体験を実施するなど、豊かな心と感性を育むための教育を実践しました。
- ・市内大学と連携し、体を動かすことの楽しさを感じながら体力向上を図る「出前授業」や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を実施し、子どもたちの体力向上に取り組みしました。

【成果指標の動向・分析】

- ・成果指標２－①は、現状値（Ｒ４年度）を下回ったものの、前年度からは上昇しました。成果指標２－②は、引き続き現状値を上回り、成果指標２－③は、現状値を下回りました。

【次年度の推進の方向性】

- ・次年度においても、「いじめは、どの学校、どの学級、どの子どもにも起こり得る」という認識のもと、いじめの早期発見と見逃さない姿勢を徹底し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めます。
- ・自己肯定感、自己有用感の向上に向け、小中一貫教育の取組を推進するほか、道徳教育や体験活動の充実にも努めます。また、運動に親しむ環境づくり、子どもの生活リズムの向上、食育の取組等により、子どもの心身の健康の保持・増進を図っていきます。

基本目標３：良好な教育環境の整備

【基本目標３で目指すこと】

子どもたちが未来への夢や希望を抱き、心身ともに健やかに成長するためには、安全・安心とともに、多様な可能性を伸ばす教育環境を整備することが必要です。

そのためには、関係機関と連携しながら、子どもたちを事故や犯罪などから守る安全教育や安全対策を推進するとともに、安全な学校施設の維持保全、非常時においても多様な学びに対応できる体制の構築と、ＩＣＴ機器を含む設備の計画的な改修・整備のほか、学びのセーフティネットの充実などを進め、教育環境の整備を図ります。

◆成果指標３－① オンライン会議システムを用いて、児童生徒と意思疎通を図りながら、双方向の授業を進行することが出来る教員の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
66.6%	81.8%	80.0%				

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標３－② 学校図書館図書標準を達成している学校の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
76.0%	96.0%	96.0%				

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

【前年度の取組内容】

・国が掲げる「ＧＩＧＡスクール構想」に基づき整備したタブレット端末の更新を進め、授業支援アプリや協働学習アプリを導入するなど、児童生徒の情報活用能力の系統的な育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りました。

また、校務支援システムと連動した保護者連絡ツールや校務への生成ＡＩの導入により、教職員の業務の効率化を図り、子どもたちと向き合う時間の確保に努めました。

・学校における読書活動の充実については、学校図書館の蔵書率向上に取り組むとともに、学校司書の巡回配置に加え、学校要望に応じた随時支援により環境整備を進めたほか、児童生徒の朝読書や調べ学習などの教育活動の支援に取り組みました。

・安全で安心な教育環境確保のため、「江別市学校施設長寿命化計画」に基づき、学校施設・設備の改修、更新等を行なったほか、暑さ対策として、普通教室等のエアコン整備を進めました。

【成果指標の動向・分析】

・成果指標３－①・②は、引き続き現状値（Ｒ４年度）を上回りました。

【次年度の推進の方向性】

・次年度においても、「ＧＩＧＡスクール構想」に基づき整備したタブレット端末の更新を進めるなど学校のＩＣＴ環境整備を進めるほか、学校図書館の蔵書整備を進め蔵書率向上に努めます。

基本目標４：地域とともにある学校づくりの推進

【基本目標４で目指すこと】

子どもたちが豊かな人間性を持って成長するためには、自制心や忍耐力といった非認知能力を培うための環境づくりが必要です。そのため、学校は、子どもたちが地域社会の中で多様な人々と関わり、多様な価値観に触れ、様々な経験を重ねていくことができるよう、家庭や地域との連携を強化し、地域とともにある学校づくりを進める必要があります。また、その連携の土台となる家庭、地域から信頼される学校づくりを実現するために、学校の組織運営体制の充実に努め、複数の学校段階間で連携して豊かな学びを育むとともに、教員が自らの資質や能力の向上に努め、教育活動の改善を図ります。

◆成果指標４－① 学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	目標値（Ｒ１０年度）
75.7%	76.9%	78.4%				

指標：江別市まちづくり市民アンケート

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

【前年度の取組内容】

- ・各中学校区において、中学校卒業時における「目指す子ども像」を学校・家庭・地域で共有しながら、学習規律や生活規律を揃えた一貫した指導や系統的な指導に精力的に取り組み、児童生徒の自己肯定感の高揚や中学校進学時に新しい環境等に適応できず諸問題につながる「中一ギャップ」の解消に努めました。

- ・地域とともにある学校づくりに向け、学校一斉公開の実施や学校のニーズに基づき地域ボランティアや学生ボランティアを多数派遣したほか、学校・家庭・地域が相互に連携して子どもを育てる持続可能な仕組みづくりのため、えべつ型コミュニティ・スクール事業を進め、学校活動への参画促進に取り組みました。

- ・ホームページにより学校の取組を紹介するとともに、学校評価を基に保護者や地域住民等の意向を踏まえた学校運営を行い、地域一体型学校の顔づくり事業を実施しました。

【成果指標の動向・分析】

- ・成果指標４－①は、現状値（Ｒ４年度）及び前年度を上回りました。

【次年度の推進の方向性】

- ・次年度においても、これまでの取組を継続し、小中一貫教育をはじめ、学校・家庭・地域が一体となって、義務教育９年間を通して目指す子ども像の実現に向けた教育を推進するとともに、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働することにより、学校を核とした地域づくりを目指す「地域学校協働活動」を推進していきます。